

28 千葉県鴨川市住民を対象としたコホート研究（おたっしゅ調査）：追跡調査実施状況

研究代表者名：水嶋春朔¹

共同研究者名：一戸貞人²、柳堀朗子²、遠藤幸男²、天野恵子²

施設名：国立保健医療科学院¹、千葉県衛生研究所²

目的

平成 15 年度に実施した鴨川市（鴨川市と天津小湊町が合併）における 40 歳以上の住民を対象としたコホート研究「おたっしゅ調査」のベースライン調査協力者 6511 名の疾病発症状況、死亡、転出、要介護認定状況に関する追跡調査を行い、検討する。日本動脈硬化予防研究基金統合研究へのデータ提供を承認した者は 2259 名である。

平成 19 年度は、調査協力者の「脳卒中」、「狭心症」、「心筋梗塞」、「骨折」の発症状況を自記式郵送法によって把握するとともに医療機関の協力を得た疾病確認調査を実施した。

方法

疾病発症把握調査：平成 19 年 2 月 1 日時点で鴨川市に在住で、生存を確認できた 6141 名（男：2767 女：3374）に調査票を送付した。

有効回答数 4584 通で回収率は 74.6% であった。回収率は男女の差はみられなかった。

疾病確認調査：鴨川市内医療機関の協力を得て疾病確認調査を行った。

結果

(1) 疾病の発症状況

調査対象疾病を発症した人数は 428 人で、回答者に対する率は 9.3% であった。内訳は、脳卒中 123、心筋梗塞・狭心症 81、骨折 179 であった。発症した率は男性の方が若干高かった。

(2) 医療機関による確認

医療機関確認について、確認承諾者（%）は 191 名で 44.6% で、疾病別では脳疾患が 37.5%、心疾患は 40.0%、骨折では 49.5% であった（図 1）。本人申告と医療機関との一致については心疾患の場合 50% 以下であった（図 2）。骨折は約 80% が医療機関の診断と一致していた。（これは、心疾患・脳疾患は骨折に比べ平成 16 年以前に発症したとする回答が多かったことと、胸痛を心疾患と誤解しているためではないかと推測された。）骨折の診断名違いは骨折部位の違いである。（確認承諾者の記入骨折部位について医療機関との一致は 78.1% であった。）

医療機関による確認を行った調査対象者では、骨折は 60 歳代がピークとなっており、脳疾患、心疾患は 70 歳代がピークとなっている。

考察

自記式郵送法による疾病発症把握調査をおこなったところ、428 人が発症を報告していたが、医療機関に

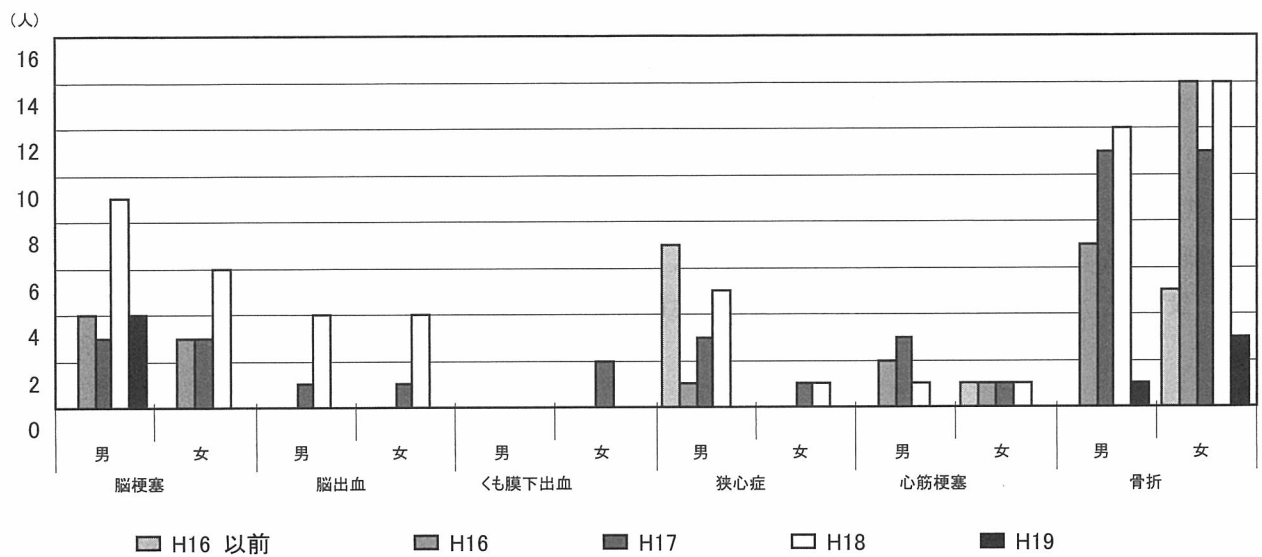


図1 年度別発症者数（医療機関確認）

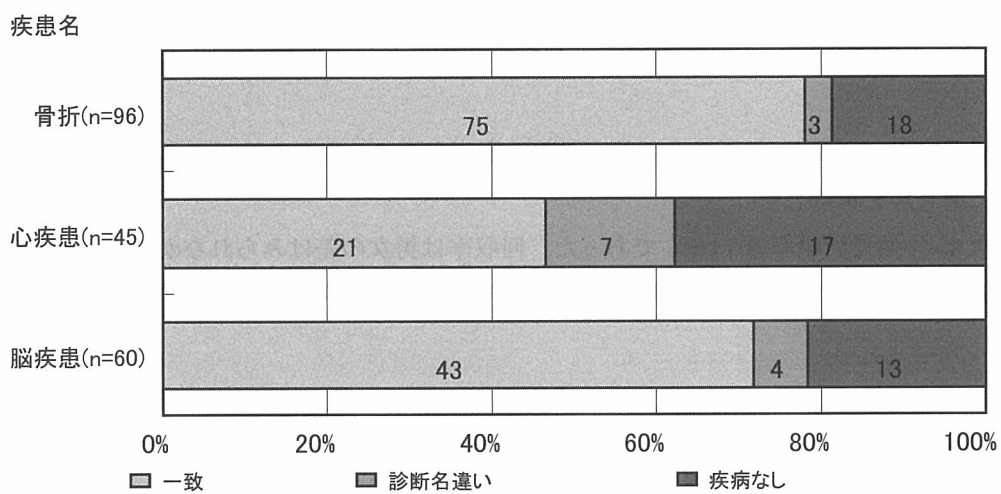


図2 医療機関確認

よる発症確認の承諾者は脳疾患が37.5%、心疾患は40.0%、骨折では49.5%であった。また本人の申告疾病名と医療機関において確認された疾病名の一致率が低い傾向にあった。

平成20年度には、ベースライン調査から5年目の最終調査を実施予定であり、疾病発症確認調査への承諾率を高め、精度の高い疾病発症の実態を明らかにしていく予定である。